# 江津の万葉ゆかりの地マップ

江津に伝わる伝承によれば、柿本人麻呂は西暦700年代初頭、石見国の初代国司として江津の「恵良の里」に赴任し、依羅娘子（よさみのおとめ）を娶ったとされています。数年後、都へ戻る別れの際に二人が詠み交わした歌は、「石見相聞歌」と呼ばれる歌群として知られており、江津市周辺の地名が六か所、歌枕として詠み込まれています。石見には、人麻呂が歩んだ古代の面影が色濃く残り、訪れる人を悠久の時へと導きます。

制作・発行 江津市観光ボランティアガイドの会　tel.0855-52-0534（江津市観光協会内）　2026.6月改訂




## ❶角の浦

渡津・江津・嘉久志・和木・角本郷・宇屋川・波子の七浦を言います。大崎鼻灯台より江津の万葉展望。

## ❷辛の崎の歌碑
（昭和62年建立）

揮毫（きごう）者：元京都大学名誉教授
澤瀉久孝 先生

碑　文：角障経　石見之海乃
言佐敞久　辛乃埼有
伊久里尓曽　深海松生流
荒磯尓曽　玉藻者生流
（万葉集 巻2 135）

訳　：つのさはふ　石見の海の
ことさへく　辛の崎なる
海石にそ　深海松生ふる
荒磯にそ　玉藻は生ふる



## ❸二宮交流館の歌碑
（平成10年建立）

揮毫（きごう）者：元京都女子大学名誉教授
清水克彦 先生

「依羅娘子生誕伝承の里」裏面には地元山藤朝之氏の揮毫で人麻呂の死を知った依羅娘子がその悲しみを詠んだ歌2首が刻まれています。




## ❹郡庁仮国庁跡
**人麻呂の職場があったと伝う地**

大化の改新により全国に国・郡・里の制がおかれた。人麻呂が石見の国に赴いた頃には国庁舎がまだなかったので、一時期、恵良の郡庁を仮国庁としたとある。




## ❺君寺の歌碑（平成5年建立）

揮毫（きごう）者：元京都女子大学名誉教授
清水克彦 先生

碑　文：勿念跡　君者雖言　相時
何時跡知而加　吾不恋有牟
（万葉集巻2 140）

訳　：な思ひと　君はいへども
逢はむ時　何時と知りてか
わが戀ひざらむ



## ❻高神の丘
**古代の狼煙台（のろし）があったと伝う地**

応神天皇の時、全国に山守部を配置。石見の国の初代山守部として、角山君内麻呂が恵良の里に移り住みのろし台が置かれた。恵良の里から高角山が望める。




## ❼柿本神社の歌碑
（昭和44年建立）

揮毫（きごう）者：元大阪大学名誉教授
犬養孝 先生

碑　文：石見乃也　高角山之　木際従
我振袖乎　妹見都良武香
（万葉集 巻2 132）

訳　：石見のや 高角山の 木の際より
わが振る袖を　妹みつらむか



歌碑は、柿本神社境内にあります。

## ❽真島

真島の岩頭に立つと北に日本海、南に眼前の和木地区の赤瓦の屋根の向こうに高角山（島の星山）が望めます。

「和木海岸の真島の岩山にあがると…（中略）当時の石見の海の荒涼とした海景は 彷彿とそこにうかび出る感がある。」

－犬養孝著「万葉の旅」より－



## ❾人丸神社の歌碑
（昭和48年建立）

揮毫（きごう）者：元九州大学教授
高木 市之助 先生

碑　文：石見のや 高角山乃 木のまより
わかふる袖を　妹みつらむか
（万葉集 巻2 132）



歌碑に隣接して、人丸神社があります。

## ❿高角山公園 展望台の歌碑
（平成24年建立）

揮毫（きごう）者：奈良女子大学名誉教授　坂本信幸 先生

碑　文：笹の葉は　み山もさやに　さやげども
我は妹思ふ　別れ来ぬれば
（万葉集 巻2 133）



公園内の高手に、日本海に注ぐ江の川と屋上の山を望む展望台がある。

## ⓫人麻呂と依羅娘子の銅像と記念碑（歌碑）

万葉銅像建立実行委員会が高角山公園に設置。銅像は平成18年建立。銅像制作は地元彫刻家 田中俊睛氏。記念碑（歌碑）は、地元書道家 山藤耕子氏の揮毫で、人麻呂の長歌の一節と依羅娘子の歌1首が刻まれています。



## ⓬高角山

都濃（角）の郷にある高い山のこと。人麻呂が高角山と詠んだ。

標高470m／別名：島の星山、星高山




## ⓭靡けこの山の標柱

「…（略）妹が門見む 靡けこの山」人麻呂の長歌の一節です。古代人は、山を精霊の宿る神秘の地と見ていました。その神々のこもる不動の山（高角山）に向かって「靡けこの山」と叫んだのです。




## ⓮江西駅（人麻呂渡し）

古代山陰道の駅の一つで金田町にあったと言われる。近くには人麻呂が大河「江の川」を渡った所とされる“人麻呂渡し”の標柱が見える。

## ⓯江東駅

古代山陰道の駅の一つで松川町八神にあったと言われる。




## ⓰屋上の山(室神山)
（標高 246m）

別名：室神山、浅利富士、高仙

「…屋上の山の雲間より
渡らふ月の惜しけども…」
（万葉集 巻2 135）



## ⓱樟道駅

古代山陰道の駅の一つで樟道駅とされているが大化年間から平安初期頃までは松川町上津井にあったと言われている。




## 駅（うまや）とは？

古代の官道に30里(今の16km)毎に設置された、役人の通行に供された施設。石見国には六つの駅があり各駅には5頭の馬が常備され「○○の駅（うまや）」というように呼ばれていた。





### 柿本人麻呂（かきのもとのひとまろ）　●宮廷歌人・国司

万葉集最高の歌人で1300年以上も昔、石見国の国司として角の里の恵良（えら：現在の江津市二宮町）に在った国庁に赴任し、地元の女性、依羅娘子と出会い妻にめとる。上来に際し妻との別れを詠んだ石見相聞歌は、万葉集で最高の歌といわれています。



### 依羅娘子（よさみのおとめ）　●人麻呂の妻

人麻呂の石見での妻といわれる。地元恵良の里長の娘で、教養と美貌を兼ね備えた女性で、今でも地元の人は「恵良姫さん」とよぶ。人麻呂と出会ったのは10代半ば過ぎであったといわれ、人麻呂との別れを詠んだ歌一首と、人麻呂の死を知って詠んだ歌二首が万葉集に残る。